

2022年05月03日(火)【外為L a b】松田哲

タイトル:【明日、米ドル政策金利引き上げが発表されても、それで終わりではない】

今日明日(2022年5月3日、4日)に、FOMC(米連邦公開市場委員会)が控えている。

そして、明日(2022年5月4日)、米国(米ドル)の政策金利が発表される。

今回のFOMCでは、米ドルの政策金利が0.50%引き上げされる、と予想されている。

+++++

+++++

金利は、極めてロジカルだ。

それは、金利には「政策金利」があるからだ。

この「政策金利」は、マーケット(市場)ではなく、人間が決める。

それも中央銀行とか、財務省とか、その時の政府といった、ごく一部の、一握りの、人間の判断によって決められる。

だからと言って、金利は世の中の人たちに深く関係しているから、あんまり急激に変動させるのは好ましくない、という事情がある。

例えば、ちょっと景気が悪くなりました。

だから、「政策金利」を3%引き下げます。

そうしたら、景気が急回復したので、それではまた「政策金利」を3%引き上げます。

といったわけにはいかない。

だから、今のように、景気が良くなりインフレが進行している時は「政策金利」を引き上げるのだが、いっぺんに2%も3%も上げるのではなくて、0.25%(ないしは、0.50%)上げる。

そして、様子をみる。

足りなければ、また、0.25%（ないしは、0.50%）上げる。

そんな風に小出しにして引き上げることになる。

+++++

金利の動きで大事なのは方向を誤らないことだ。

ただ、金利の方向性はちゃんと勉強すれば、誰にでもわかる。

それから、「政策金利」の動きは同じ方向に少なくとも3回は動く。

これは、絶対ではないのだが、一部の人間が様子を見ながら小出しに上げたり下げたりするのだから、普通は足りなめになるからだ。

逆に「政策金利」が半年ごとに、上がったり下がったりしたら、マーケットから信認されなくなってしまう。

そんなことするくらいだったら、金利を動かさないで様子を見るべきだと、マーケットの参加者は考えるからだ。

+++++

「政策金利」を決める、権限のある一握りの人間が、どう考えるか、それから、それがどの程度なのかを考えれば、おのずと読めるわけだ。

+++++

+++++

現在の米ドルの政策金利を考察してみよう。

事前の予想通りに、今回（2022年5月3日、4日）のFOMCで、米ドルの政策金利が0.50%引き上げされても、それで「打ち止め」ではない。

今回（2022年5月3日、4日）のFOMCを含む、年内（2022年）の6回のFOMCの全てで、米ドルの政策金利を引き上げる旨が、前回（2022年3月15日、16日）のFOMCで、示唆されている。

つまり、明日（2022年5月4日）を含む6回のFOMCで、それぞれ0.50%の利上げが実施される場合は、合計で、3.0%の金利上昇となる。

+++++++++++++++++

現状の米国のインフレ率の高さを考慮すると、現在の米ドル政策金利から、3.0%引き上げされても、全く不可思議ではない。

むしろ、そうなる方が当然とも言える。

+++++++++++++++++

+++++++++++++++++

別な言い方をするならば、明日（2022年5月4日）、米ドル政策金利引き上げが発表されても、それで終わりではない。

すぐに、マーケット（外国為替市場）では、次のFOMC（2022年6月14日、15日）での利上げが話題になる、と予測される。

+++++++++++++++++

+++++++++++++++++

（2022年05月04日東京時間12:35記述）